



## 災害から生命を守るために 一日頃からの備えと地域とのつながり

校長 岸 知聡

2学期始業式から1か月が経とうとしています。この9月、東京都では雨の日が記録的に続き、日照時間も少ない状況となりました。校庭が使えない日も多く、傘を差して登下校する生徒の姿を目にします。夏休みから9月にかけては、各地で線状降水帯や台風の影響などによる豪雨が発生し、大きな被害が生じました。今なお避難生活を余儀なくされている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

私の学生時代からの古い友人も、8月の千葉豪雨により自宅が被害を受けました。先日、その友人と直接会い、豪雨による被害について話を聞く機会がありました。友人から「ぜひ中学生にも実体験を伝えてほしい」との言葉をいただき、ここで紹介いたします。

友人は集合住宅（マンション）の1階に住んでいました。豪雨の際には、水が窓ガラスを破って室内に入り、家の中にあった物を押し流したそうです。室内に入った水が引いていく際には、家の中の物が外へ流されてしまうこともあります。水流によって物が元の場所から移動するため、大切な品が見つからなくなる場合もあるとのことでした。泥水につかった家財道具は使えなくなり、住み続けることができない状態となりました。復旧には、床や壁を取り外して十分に乾燥させ、何度も消毒を行う必要があるとのことでした。

また、直接浸水しなかった上階にも大きな影響がありました。建物の電気設備などが水害を受けると、水道、下水、エレベーターなどが使用できなくなります。上階の住民は、必要な水や物を階段で運ばなければなりません。さらに、立体駐車場も電源が故障したため、1か月以上経っても車を出せない状況が続いているそうです。

友人は、家の片付けはもちろんのこと、住まい探しや各種手続きなど、これからが大変だと話していました。また、友人は次のようにも話していました。

「大地震と違って、水害の場合は、影響を受けていないお店がすぐに営業を再開し、食料や衣類など必要なものは手に入れられる場合がある。水害で避難する際には、避難用持ち出し袋だけでなく、財布やスマートフォン、充電器、キャッシュカード、預金通帳、マイナンバーカードなど、支払いや各種手続きに必要な物を優先して持ち出すことが大切である。」

**災害の種類によって、必要な備えや対応が異なることを改めて考えさせられました。**

そして、何よりも自分の生命を守る行動が最も大切です。今回の災害発生当日、友人は県外の実家に帰省しており、息子さんが一人で留守番をしていたそうです。雨が激しくなったとき、隣の方が「逃げるよ」と息子さんに声をかけ、一緒に避難してくださったそうです。その後、窓ガラスが割れ、室内に水が流れ込みました。声をかけてもらえなければ、避難が遅れていたかもしれません。**日頃からの地域のつながりや住民同士の助け合いが、大切な生命を守ることに繋がると強く感じました。**

一中生の皆さんも、一人で留守番をすることがあるでしょう。そのときに災害が起きた場合を想定し、自分の生命を守る方法を知り、状況に応じて正しく判断し、行動する力を身に付けることが大切です。また、日頃から地域とのつながりを大切にし、いざというときに声を掛け合ったり助け合ったりするなど、地域から頼りにされる存在へと成長してほしいと思います。

9月4日には、1年生が国分寺市役所防災安全課、国分寺消防署戸倉出張所の方々をお招きして、防災教室を実施しました。また、9月30日には、2年生が保護者や地域の皆様とともに、避難所運営について考える防災学習「HUG」を実施します。生徒の皆さんには、防災を他人事ではなく自分自身の課題として捉え、学びを今後の行動につなげていってほしいと願っています。

保護者、地域の皆様におかれましても、この機会に避難場所や連絡方法、持ち出す物などについて、ぜひご家庭で話し合ってみてください。